

令和5年度第2回学校評議員会議事録

1. 日時 令和6年2月21日(水)13:30~15:20
2. 場所 宝塚東高等学校 アクティブラーニング室
3. 出席者 神戸大学大学院教授、神戸学院教授、中山五月台中学校長、同窓会長、自治会長、育友会長、校長、教頭、事務長、総務部長、教務部長、進路指導部長、生徒指導部長、保健部長、通級担当、1年学年主任、2年学年主任、3年学年主任、記録
4. 司会【教頭】

1) 学校長挨拶【校長】

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症(以下コロナ)も禍も落ち着きを見せるようになり、5月に5類になってから、外部からの来校が可能となり、通常通り学校行事が行えるようになった。コロナ前と比較して新たなスタートを切れる年となり生徒の成長を感じている。

2月29日には48回生188名を送り出すことができた。多くの方々とお祝いのできたことはよかった。

また、特色選抜入試においては募集定員24名のところ16名が合格者となった。明日からは学力検査の願書受付が始まり定員を超えてもらえればと思っている。年度末、評議員の忌憚のない意見をお聞かせいただきたい。

2) 学校経営総括【校長】

コロナが落ち着き、新たなスタートとも言える。学校行事においては6月の憧華祭(文化祭)では食品バザーも好調であった。9月の体育祭ではテントから溢れ出すほどに保護者の来校があった。1月の卒業式では白銀合宿(スキー修学旅行)。2月にはマラソン大会が実施でき、生徒一人一人が生き生きと活動できる行事が数多く行えた。令和6年度には新課程で全学年が揃う。タブレットを使っの学習に取り組むことになっていくスタートとも言える。

制服・校則については生徒たちと意見交換の場を持ちながら対応していきたい。また、オープン・ハイスクールにおいては開催を1回増やした。そのことで学校をより知ってもらい希望者の増加に努める。ホームページの作成においては、メディアクリエイターである卒業生に指示を仰ぎ動画やポスターを掲げている。「宝塚東高校楽しそう」と思ってもらえるホームページとなっている。より一層の広報につとめていきたい。

4月には台湾との国際交流として来校予定があり、国際交流も推進していきたい。

11月18日には50周年記念式典を川西のキセラホールで実施した。生徒が活躍できる会をと考え、書道部の生徒が書き上げた案内看板の使用。受付も生徒会や進路決定していた生徒が活躍してくれた。他にも当日の司会についても1年生の2人がしてくれた。ピロティでは部活動の掲示など

本校生徒の頑張りを見ていただける機会となった。来賓や阪神間校長からもお褒めの言葉を多くいただけた。学校の現状を把握し、地域から求められる学校経営をしていければと考えている。生徒については自己分析ができ自分の強み弱み、他者からの評価も素直に聞き入れる姿勢を大切に過ごしてほしい。

最後に、永年、体育館の雨漏りがあったが、カバー工法による工事が行われた。避難所として指定を受けているので来年度には空調設備が完備され災害時に使用できる体制も整えられる。

3) 各種アンケート【教頭】

生徒の満足度について3年生では47人が満点(10段階評価の10)で答えている。満足度8以上を加えると半数以上の91人となり概ね学校に満足している様子が見える。

1年生から目標を立て基礎学力の定着を目指し、教員はスモールステップを意識した達成感の持てる手立てを多く行っているが、1年生の保護者からはやや辛口の評価となった。

広報活動については保護者からやや伝わりにくいとの結果が見られる。アドミッションポリシー:「かなえたい夢のある生徒」については約40%の生徒・保護者がよく知らないままに入学している結果となった。

生活実態状況調査では去年と今年の結果を見ても読書習慣が極めて少ない。この点は課題と受止めている。また、「学校の授業時間以外に、1日だいたいどのくらい勉強しますか[平日]」では「まったく、または、ほとんどしない」が3年生 58%・2年生60%・1年生 40%となっており、学習習慣の確立が課題となっている。「就寝時間を教えてください[平日]」では0時以降が45%を占めており、「睡眠時間を教えてください[平日]」は7~8時間は2割に留まっており、本校生徒では6.5時間あたりが多い結果となった。睡眠に関して、充分取れている状態の生徒は少ない結果となった。食習慣に関することでは平日の朝食について16%が食べておらず休日の朝食では約20%が食べないと答えている。生活習慣の見直しも課題の一つと言える。

4) 卒業生アンケート【進路指導部長】

高校2年生の段階で、進路希望が明確な生徒は半数程度。3年に進級してから夏休みまでの間によりやく進路希望が固まる。しかし、進路決定後の満足度は高い。それは、あまり努力せずに、進路を決めて、自分の行けそうな場所を選び満足してしまっている。本校の「1つ上の自分を目指す」という目標を達成する生徒を育成していきたい。

3年生では平日3時間以上、休日4時間以上学習している生徒が2割しかいないのは残念な事ではあるが、自らの進路に向き合い、真剣に学習する生徒が増えてくる。

今年度48回生においては国公立2名・関学2名・関大1名・立命館1名と結果を残すことができている。

5.各部・学年の取組及び成果と課題

1)【総務部長】

オープン・ハイスクールにおいて昨年度より120名の増加となった。その一つに外部への広報活動、発信力が顕著であったことが大きいと言える。4年前に比べると掃除の取組が全般的に良くなっている。継続し10年単位で将来を見据えて取組むことが大事だと考える。

50周年記念誌を作る際、10年間を遡るのに大変苦慮した。60周年記念式典に向けては資料の保存法についても考えていく必要がある。

また学校案内に卒業生の声を寄せてもらっている。宝塚東高校を卒業した生徒のロールモデルを載せている。宝塚東を目指したい生徒を増やすこと、卒業後も宝塚東高校の卒業生で良かったと思える生徒増やしていきたい。ここ数年は生徒も良い方向へと変わってきており、地域からも認められる学校を目指していきたい。

2)【教務部長】

令和6年度は全学年がiPadを携帯することになる。そのため、アプリを利用し、授業の復習、家庭学習にも有効活用していきたい。生徒、教員のGoogleアプリなどの利用頻度を高めていきつつ、ICTの定着と充実に注力していきたい。また、研修機会を増やして、自分でICTを操作できる教員を増やしていきたいと考える。3観点の評価においても個に応じた学習指導の徹底を図りたい。

3)【進路指導部長】

令和5年度は就職希望の3年生が6名、県庁インターシップ(教育委員会及び総合体育館)へ参加し社会経験ができたのは大きかった。また、進路ガイダンスを今年度全7回実施、毎学期ごとに行っていることで、将来の進路の幅を広げることに繋がり、自らの進路について深く考える機会を持つことができている。また、探究の時間にも自らの将来について考える時間を増やし、より早く進路希望を明確にすることにつながると思われる。

4)【生徒指導部長】

遅刻の件数は6500件と依然多いが各学年の先生方が対応してコミュニケーションを大切にしている。生徒への丁寧な対応の積み重ねにより、校内整美が行き届いてきた。一方、生徒指導の件数は増加したが生徒に考えさせることができ、次のステップへ繋げることができた。昨今はSNSによる希薄な人間関係が多くなってきており懸念している。

5)【生徒指導部/保健部長】

「ほけんだより」の発行ができた。コロナが5類へ移行して以降、今年度はインフルエンザの罹患が多かった。学校医や地域社会とも連携を図りながら、病気の予防や検診結果を返しての早期治療

を目指している。また専門家を招いて特別支援の視点からの生徒理解とユニバーサルデザインの授業への取組にも力を入れてきた。

6)【通級指導について】

木曜日の7限目に通級の授業を行い、取り組みや成果が認められた場合、自立活動として単位取得も認定された。学校生活に合わせた対応も丁寧に行ってきた。学習上、生活上困難な生徒に対してきめ細かい指導を行っている。3年生2名、1年生3名の計5名の希望者に対応し、3年生においては卒業後の進路実現に向けても課題に取り組み、無事希望者を達成することができた。職員においては2回の研修会を実施。ユニバーサルデザインについてなど特化した内容で計画し、資質向上を図った。来年度も校内外、地域とも連携しながら指導体制を充実させていきたい。

7)【総合健康類型】

2年生では医療、スポーツ、健康の分野から自ら興味を持ったものについてプレゼンテーションを行えたかの評価に5段階のうちできたと感じている割合が3.9ポイントと満足できている生徒が多い。また、神戸学院大学の安富先生より「避難所運営ゲーム」をしていただいたことで防災についての意識が高められた。

3年生では全5回の手話の講義を行いコミュニケーションの充実に繋げていった。卒業論文についてもテーマの絞込みを早く行うことができたので、完成度の高いものができた。今後も、生徒は自分たちができることを増やし、地域社会で貢献できるリーダーシップ性を培ってほしい。

8)【48回生/第3学年主任】

1年生の頃からペアワーク、グループワークを実施してきた。「時間を守りましょう」と常に伝え続け、自立した人を育てることを目標としてきた。当該学年では7年ぶりの国公立合格者を出すことができた(高知県立大学1名)。一般入試でも(関学2名・関大1名・立命館1名)結果を残せた。最後まで諦めることなく取組めた結果と言える。48回生全体では「どうした? どうしたい?」を投げかけることで主体性を高め自己決定のできる生徒を育ててきた。

9)【49回生/第2学年主任】

学年として①「校則の厳守」②「無断欠席の撲滅」③「他者を尊重し、いじめのない環境づくり」の3つを学年目標に掲げてきた。無断欠席をする生徒は減少しゼロに近づいていますが、欠席と遅刻が多かった。保護者と連携して、本人と学校が同じ目標に向かって進んでいけるように尽力すべきと痛感した一年だった。来年度は最高学年として、進路実現も含めて、目標の実現のできる生徒を育成していきたい。

10)【50回生/第1学年主任】

充実した三年間を生徒たちと作り上げるため、5つの学年目標を掲げている。1、当たり前前を当たり前にする 2、嘘をつかない 3自ら考えて鼓動する 4、全力投球 5、愛される人になる

今年度は生徒指導にとっても苦勞した。一件一件、丁寧に向き合い、指導をしてきた。その結果、生徒たちとの信頼関係を築けてきたと感じる。学校行事、学年行事で大いに盛り上がり、学習面でもよく頑張った。明るく活発な学年になっている。

6.令和6年度学校行事について

来年度は、今年度の行事に加え、4月に台湾交流、11月にオープン・ハイスクールがあります。

7.兵庫県立宝塚東高等学校いじめ防止基本方針【生徒指導部長】

今年度のいじめ案件は6件(SNS・部活動・クラス間・男女間に関する内容)その都度、全校集会を行い生徒には内容に応じて伝えてきた。いじめアンケートにおいて、記述があれば担任が聴き取りをして対応してきた。

8.令和5年度 校則見直しについて【生徒指導部長】

女子生徒のスラックス着用時にネクタイの着用を認めた。

8.評議委員より感想・質疑応答

【神戸大学大学院教授】

来校した際、生徒が挨拶してくれた。着実な成果を感じた。アンケート結果では保護者に対する質問を精選する必要がある。また、卒業生の声としてのアンケートも欲しい。自由記述における後輩へのアンケートは興味深いものが多かった。卒業生が宝塚東高等学校で学びの自己実現ができていく点をアピールしていくことが今後大切だと感じる。

→卒業生の声を聞く機会は今のところ、もっていない。

【神戸学院教授】

読書をしない生徒が多いのにはびっくりした。幼少時からの読書習慣は必要と言える。総合健康類型受講の2年生がワークショップで行った「避難所運営ゲーム」は、アクティブラーニング的なことを増やした授業をと準備した。当日帯同した大学生は、「人に教えることのむずかしさなど勉強になった」と感想を述べており、大学生にとっても大変勉強になった。

【宝塚市立中山五月台中学校校長】

中山五月台中学では、読書の取組をしている。中学では部活動や習い事などの時間的制約が

多いが読書習慣の大切は伝えてはいる。しかし読書以外の情報源が多くなっていることも事実である。各家庭における数字に表れない活字離れもあるだろう。

また、生徒への満足度アンケートを実施し、思いがけない小さなサインが見られることがある。

【宝塚市立中山五月自治会長】

あらゆる項目のアンケートを実施し大変な労力を費やされていることに感心した。読書をしない、勉強をしないそれらは SNS の普及によるものか。新聞の購読者も減少しデジタルで新聞を読む人の割合が高くなっているのも一因か。

→やはり、スマホに費やす時間が多いのは原因の一つであると考え。文字を読むよりも動画や音声などが身近にある環境である。

【同窓会長】

50周年記念式典では生徒それぞれが役割を担っていて、とても素晴らしかった。成功体験を積む大切さは勿論だが失敗から学ぶことも多い。面倒見の良い学校を巣立った後、良い社会人となって活躍して欲しい。また、アンケート結果より食堂に対する満足度が高かった。食堂の方にもお知らせしてあげるのがよい。読書習慣も大切だが文字だけに留まらず、何に興味があるのかを知ることでも大事である。文字が入りにくい難しさを抱える生徒がいることもいるのではないかと考える。

【育友会長】

遅刻や食習慣については各家庭における指導も大切である。保護者として、学校に協力していきたい。

9.【閉会挨拶:校長】

明日から願書の受付開始である。出願数で教育そのものを測れるわけではないが定員を超える出願を期待している。評議員の皆様には今後ご協力をいただきたい。